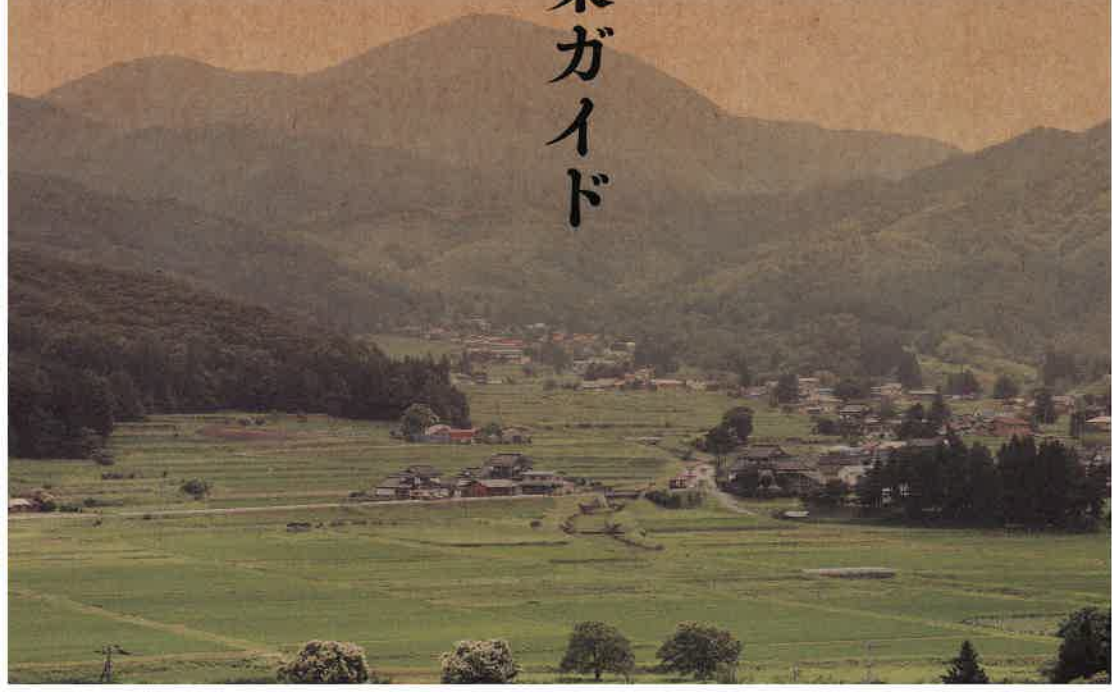




国選定重要文化的景観

遠野 土淵山口集落散策ガイド

『遠野物語』のふるさと、土淵山口集落をゆったり巡る



山口集落と『遠野物語』

馬産地・遠野と山口集落

馬は運搬や、移動、戦、農耕等に役立つ大事な動物で、遠野一帯でも古くから飼養されていました。江戸時代には南部藩の奨励により馬産の礎が築かれ、近代以降も基幹産業として営まれてきました。現在も、乗用馬や競走馬の育成が行われています。

山口集落は、江戸時代には山口村と栃内村という農村でした。明治時代に周辺の村と共に土淵村となり、昭和29(1954)年の合併で遠野市となります。遠野城下を引き継ぐ市の中心市街地から東方の三陸海岸へと向かう街道が通過しており、大槌方面と釜石方面に分かれて山道へと変わる分岐点に立地しています。沿道に並ぶ家々では、かつては馬を買い、農耕や駄賃付け(運送業)に利用していました。以上より、本地区は馬産地・遠野を象徴する重要な文化的景観「遠野 荒川高原牧場 土淵山口集落」の一部となっています。



国選定重要文化的景観 「遠野 荒川高原牧場 土淵山口集落」

荒川高原牧場(左) 荒川駒形神社(右)
馬と暮らしにより育まれた遠野の独特な文化の原点として、平成20年、遠野市の北東部に位置する荒川高原牧場、翌年にその麓にある荒川駒形神社が重要な文化的景観となりました。平成25年3月には、土淵山口集落が追加されました。



山口普請組

(右) 山口集落内の整備を行う住民による組織。「おらほのながめづくりの会整備チーム」の別称です。山口集落で昔から整備の意味で使われてきた「普請」という言葉を使いました。(左) 集落内にある誘導板や説明板は、基礎工事から設置まで、山口普請組が行いました。

柳田國男『遠野物語』と山口集落

かつて人馬が行き交った山口集落では、目新しい話、珍しい話、不思議な話など、旅人によって様々な話もたらされました。これと合わせて、家々や地域の由緒や伝承なども語られたものと思われれます。こうして当地に残った話を収集していた佐々木喜善(1886~1933)が柳田國男(1875~1962)に語り、まとめられたのが日本民俗学の記念碑的著作とも言われる『遠野物語』です。

山口集落には、『遠野物語』に描かれる様々な場所や建物が随所に残っています。山男山女に出会うとされた峠や河童が出る姥子淵、サシキワラシがいたという屋敷跡、60歳をこえた人が追いやられたデンデラノなどは、その一例です。人が馬と一緒に暮らしていたころ、山々への畏怖、危険な場所や物への警告、不思議な出来事、貧しい生活の悲しみなどをどのように表現してきたのかを、物語と景観で感じてください。

山口集落のながめづくり

山口集落では、住民自らが取り組む景観保全の指針として「おらほのながめづくりガイドライン」を定めています。また、遠野市と「遠野市土淵町山口集落ながめづくり協定」を結び、協働で『遠野物語』の原風景を守っています。



『遠野物語』

明治43年(1910)、後に民俗学者となる柳田國男が遠野に伝わる伝承をまとめて発刊した著書。日本民俗学の誕生を告げる記念碑的著作といわれています。



柳田 國男(1875~1962)(右)
現在の兵庫県神崎郡福崎町生まれ。民俗学の創始者。遠野出身の佐々木喜善との出会いをきっかけに、明治43年(1910)、『遠野物語』を上梓しました。
佐々木 喜善(1886~1933)(左)
現在の遠野市土淵町山口生まれ。柳田國男の著作『遠野物語』の話者。日本の昔話研究に先駆的な業績を挙げたことから「日本のグリム」といわれています。



多言語対応しております。
English/繁体中文/Français

山口集落の散策マップ

Yamaguchi Settlements Walking Guide Map



1~18 文化的景観の重要な構成要素

①~⑥ ビューポイント

『遠野物語』の舞台

- ① 第79話他 田尻家の怪異
- ② 第69話他 大洞家
- ③ 第111話他 デンデラノ
- ④ 第58話 河童出没地
- ⑤ 序文他 『遠野物語』の話者佐々木喜善の生家
- ⑥ 第18話 ザシキワラシがいた家の跡地
- ⑦ 第21話 薬師堂
- ⑧ 第111話他 ダンノハナ
- ⑨ 第5話 山男山女が出没した峠
- ⑩ 第37話 狼がいた峠



② 集落北側の農道から眺める夕景



① 山崎金勢様付近からの遠景(表紙)



イラスト 橋本 亮子



① 薬師堂入口付近から眺める田んぼ



田んぼの中の古墓とお地藏様
山口の薬師堂へ行く途中、集落には珍しいお地藏様がある。田んぼの中にあり、四季折々の表情が見られる。



③ ダンノハナから佐々木喜善生家などの集落を見下ろす
『遠野物語』に登場する囚人の処刑場と語り継がれてきた場所。丘陵地全体が中世の城館跡(山口館跡)。現在は共同墓地で、佐々木喜善の墓もある。



⑦ 10 山口の薬師堂

2 山口の街道
3 山口の旧道
7 旧道の石碑群(北)
6 旧道の石碑群(南)



15 山口の水車小屋
茅葺の水車小屋。遅くとも明治期にはこの地にある集落の象徴。平成27年、使用できるように修理し、粉挽きなどに活用されている。

13 孫左衛門の井戸
14 孫左衛門の墓

9 ダンノハナと佐々木喜善墓地

16 土淵町大洞のヤマザクラ
(見ごろ 4月下旬~5月上旬)

1 大槌街道
(市道山口貞任線)

11 薬師堂の大鳥居

12 佐々木家住宅
(佐々木喜善生家)

18 山口川

5 田尻の石碑群

案内板

山口自治会館

バス停「山口」

8 山口のデンデラノ



⑤ デンデラノから眺める棚田



12 佐々木家住宅(佐々木喜善生家)
柳田國男に遠野の話を読んだ佐々木喜善の生家。主屋は明治期の南部曲り家で、生垣・庭の佇まいは『遠野物語』に登場する家屋敷の姿を良く留める。敷地外からの見学となる。



8 山口のデンデラノ
『遠野物語』に60歳を超えた人が暮らす場所として登場する。現在は原野と畑地であり、地域住民が共同で管理している。縄文時代からの遺跡でもあり、遠野遺産にも認定されている。

モデルコース

- 『遠野物語』ゆったりコース(徒歩約50分)
15 山口の水車小屋 → 河童淵 → 13・14 孫左衛門の井戸・墓 → 9 ダンノハナと佐々木喜善墓地 → 12 佐々木喜善生家 → 8 山口のデンデラノ

『遠野物語』どっぴりコース(徒歩約2時間)

- 15 山口の水車小屋 → 10 山口の薬師堂 → 9 ダンノハナと佐々木喜善墓地 → ダンノハナの旧道を抜けて → 16 大洞のヤマザクラ(春) → 大槌街道経由 → 田尻家 → 大洞家 → 5 田尻の石碑群 → 8 山口のデンデラノ → 12 佐々木喜善生家 → 13・14 孫左衛門の井戸・墓 → 河童淵(姥子淵)

山口集落の食と暮らし

山口集落には、『遠野物語』に描かれた時代から脈々と受け継がれてきたさまざまな郷土食や伝統行事があります。



豆しとき



おふかし



干し柿



きりせんしょ

- | | | |
|-----|------|---------------------------|
| 食 | 春 | 豆しとき |
| | 夏 | おふかし(赤飯) |
| | 秋 | 干し柿 |
| | 冬 | きりせんしょ |
| 暮らし | 3月下旬 | 火伏せ |
| | 5月上旬 | 薬師堂宵宮祭(翌日は例祭) |
| | 8月 | 盆、ナヌカビ(盆の入り)、仏送り、トウロウギ ほか |
| | 9月中旬 | 百万遍の数珠回し |



百万遍の数珠回し
ダンノハナのオテラッコ
前でやられる。

▲早池峰山

山口さんさ踊り 写真はお薬師様の宵宮にて。



火伏せ 地域で講中を結び古権神社で授けられた御札を(3月末の自治会総会後に)自治会館の神棚に供え、集落内に火災が起こらないよう、みんなで祈る。

トウロウギ 新しいホトケのある家で新盆から3年間、8/7～8/30までホトケが家に帰る目印として庭先に立てる。



交通機関のご案内

- いわて花巻空港、東北新幹線新花巻駅より車で約1時間
- 遠野ICより車で25分
- JR釜石線新花巻駅より遠野駅まで約1時間
遠野駅より車で約20分
- 遠野駅より早池峰バスで35分
山口バス停下車(1日3往復)

